

新時代

現状の「一球入魂かぼちゃ」に満足せず、さらなる品質の向上を求めて栽培方法を改良し、新たな時代を切り開いた情熱の結晶です。

最初作業が肝心
すくすく育つためには



2 敷き藁～受粉

葉が勢よく茂ってきたら、つるが伸びる場所に敷き藁を行います。6月中旬頃になると、いよいよ開花がスタート。1つ1つ手作業で受粉していきます。

つるを保護する敷き藁と
受粉作業はすべて手作業



1 土壌作り

地元の海藻アマモと米ぬかを土壌に混合散布し、栄養豊富な土壌を作ります。その後、5月下旬にポットで育てたかぼちゃの苗を定植します。

6 風乾作業～出荷

収穫した実はへたを切り、2段ぐらいに積んで10日間ほど風を通し、追熟させます。出荷直前に亀の子束子で表面を磨いて箱詰め。9月以降から店頭に並び始めます。

余分な水分を排出させ
よりおいしさを高める時間



5 収穫

8月中旬以降、検査を行った後に収穫開始。その際、実の表面に傷をつけないよう慎重に作業を行います。この時、1個の平均重量は2kg程度になっています。

デリケートな赤ちゃんのように
そっとやさしく収穫を



3 芽かき作業～肥料散布

7月に入ったら次から次へと生えてくる不要な“わき芽”をすべて除去。実がこぼしサイズに肥大したのを確認し、葉面散布で栄養を与えます。

余計な芽をすべて省いて
1つの実にも栄養を集中



4 マット敷き～日焼け止め対策

実を保護するために、1つつつ下にマットを敷きます。また、強い日差しで変色を避けるためにカバーかけも。畑の周囲には、強風から守るためにイネ科のソルゴーを植えておきます。

過保護過ぎるくらいに
かぼちゃの実をガード

